



第21回学祖・下田歌子展

—華族女学校創設と欧米教育視察—



2022年

4月8日（金）—

5月13日（金）



開館時間 10:30~17:00
 休館日 土・日曜日、5月3日（火・祝）~6日（金）
 観覧料 無料
 会場 実践女子大学香雪記念資料館
 企画展示室 1・2
 主催 実践女子大学香雪記念資料館
 後援 渋谷区教育委員会

実践女子大学香雪記念資料館

上：「白洋装 上半身像」明治35年（1902）頃（部分）
下：樵露「下田歌子絵姿」明治20~30年代（部分）

ともに実践女子大学図書館蔵

実践女子大学香雪記念資料館

第21回 学祖・下田歌子展 — 華族女学校創設と欧米教育視察 —

学園の創立者である下田歌子(1854-1936、本名:平尾鉞)は、下田猛雄との結婚後、明治15年(1882)に麹町区壱番町(現、千代田区九段南2丁目)にて、私立女学校「桃夭学校」を開校しました。当時、明治という新しい時代にふさわしい女子教育への要望が高まり、その指導役としての女性教師が求められていました。宮中を辞して家庭に入り、病夫を抱えて生活を支える立場に置かれていた下田歌子は、その才能を見込んだ伊藤博文や土方久元らに勧められ、女子教育の道を歩みはじめます。

明治18年(1885)には華族の女子のための教育機関である華族女学校が開校し、その創設に携わっていた歌子は幹事兼教授に就任。翌年には学監となり、明治39年(1906)に華族女学校が学習院に合併されるまで、その運営と教育に力を注ぎました。歌子は自ら教科書を編纂したり、また生徒の服装にも意を用いて新しく女袴を考案したりするなど、多方面にその才を発揮しました。

明治26年(1893)、明治天皇の第六皇女である常宮昌子内親王と、第七皇女である周宮房子内親王の御用掛の内定を受けた歌子は、その任に当たるために欧米諸国の女子教育を視察すべく留学します。歌子は2年間にわたり、各国の女子教育について見聞を広め、イギリスではバッキンガム宮殿にてヴィクトリア女王への謁見も果たしました。この欧米女子教育視察をとおして、歌子は華族など上流階級の女子だけでなく、一般女子への教育の必要性を感じ、その後の実践女学校創立へとつながっていきました。

本展では女子教育の道へと進んだ下田歌子が、華族女学校で教壇に立ち、欧米教育視察をとおして自らの教育理念の基礎を築くまでの時期に焦点をあて、その活動の軌跡を紹介します。



左:「銅製篋りんどう紋小花瓶」明治39年
右:荒木寛友「四季草花図屏風」明治30年代
ともに実践女子大学図書館蔵



【アクセス】

JR/東京メトロ/東急/京王「渋谷駅」東口から徒歩約10分
東京メトロ「表参道駅」B1出口から徒歩約12分

※当館は、実践女子大学渋谷キャンパスの1階にございます。駐車場・駐輪場はございませんので、ご来館の際は公共の交通機関をご利用ください。また、六本木通り沿いにある正面入口右手の警備室へ入館の旨をお伝えください。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、展覧会の会期や開館時間等を変更する場合がございます。最新情報につきましては、当館ホームページをご確認ください。



実践女子大学香雪記念資料館

〒150-8538

東京都渋谷区東1-1-49 実践女子大学渋谷キャンパス内

TEL 03-6450-6805 HP <https://www.jissen.ac.jp/kosetsu/>

